

**東海第二発電所 雑固体減容処理設備冷却室内における
溶融金属等の飛散に伴う発煙について（その3）
－調査状況－**

当社、東海第二発電所は定格熱出力一定運転中（沸騰水型軽水炉：定格電気出力110万ワット）のところ、本日、6時35分ごろ、増強廃棄物処理建屋（発電所構内）雑固体減容処理設備冷却室内で発煙が確認されました。6時46分に消防署へ通報するとともに、自衛消防隊及び6時55分ごろに到着した公設消防隊による確認の結果、15時25分東海消防本部により、火災ではないと判断されました。

（10月10日お知らせ済み）

その後、雑固体減容処理設備冷却室内の温度低下を待って、点検用扉を開放しての室内調査等、現場確認を行なったところ、以下の状況が確認されました。

1. 10月10日現在で外観目視ができなかった、溶融物を収める容器（キャニスタ）の側面に損傷（開口）部があり、そこから溶融物が流出していました。
2. 燃焼の痕跡は認められません。
3. 昇降機を駆動するチェーンが外れていました。この他、溶融物によって堰の塗装、ケーブルを保護するものが傷んでいました。
4. 溶融物は、流出防止用の堰内に留まっておりましたが、溶融炉キャニスタ冷却室昇降機エリア南西の柱の継目部から僅かな溶融物が溶融炉キャニスタ冷却室外に漏れ出た後、凝固していました。

引き続き、原因究明のための点検調査を行なっていきます。

なお、発電所の状況は以下のとおりです。

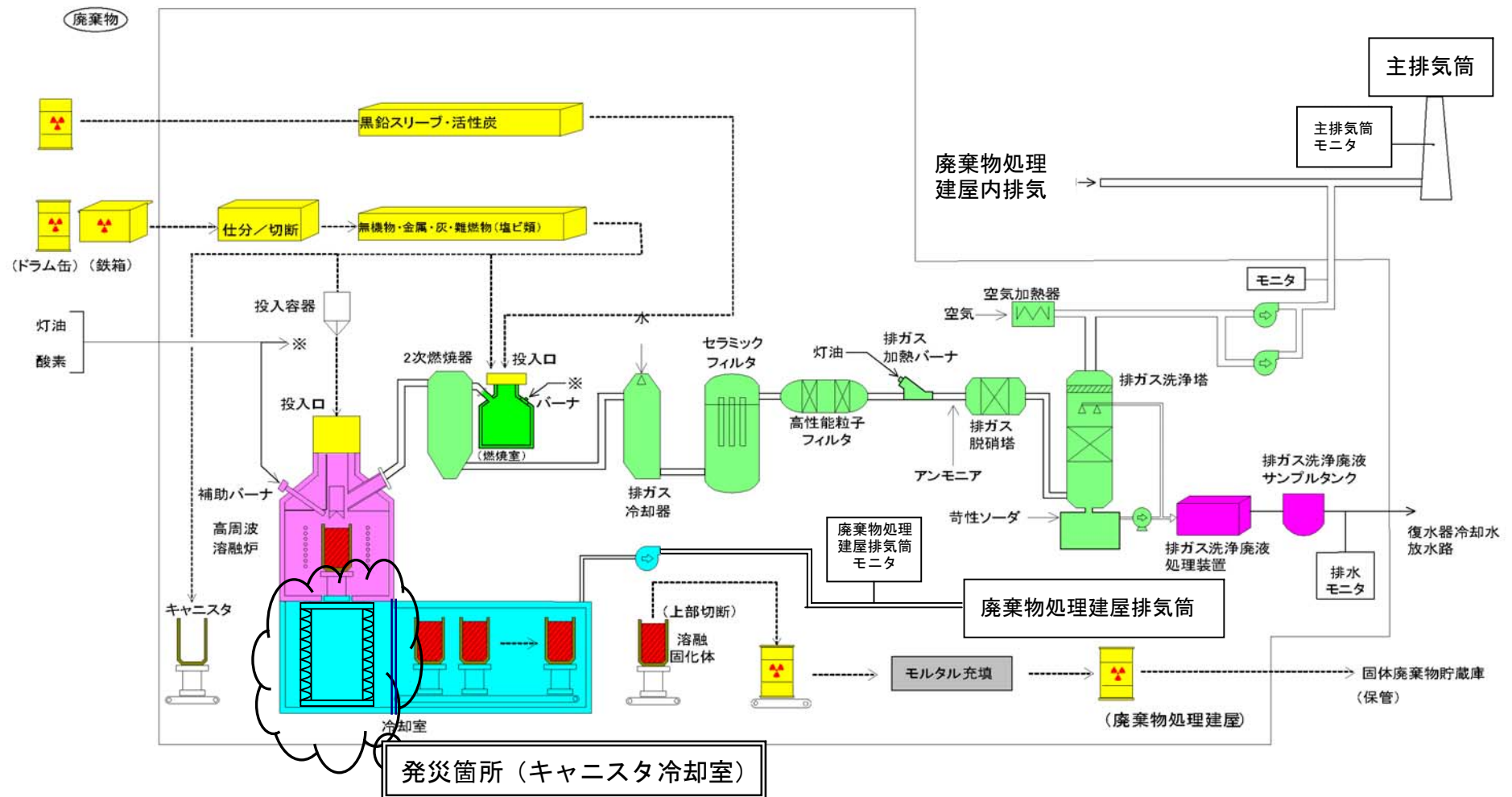
1. 原子炉施設等の状況
増強廃棄物処理建屋は、原子炉の運転に影響を与えない設備であることから、安全に定格熱出力一定運転を継続しています。
2. 周辺環境への放射能の影響
モニタリングポストなど、環境放射線モニターの指示の変化はなく、外部への放射能の影響はありません。

添付－１ 雑固体減容処理設備の概要

添付－２ 溶融炉キャニスタ冷却室等現場確認状況

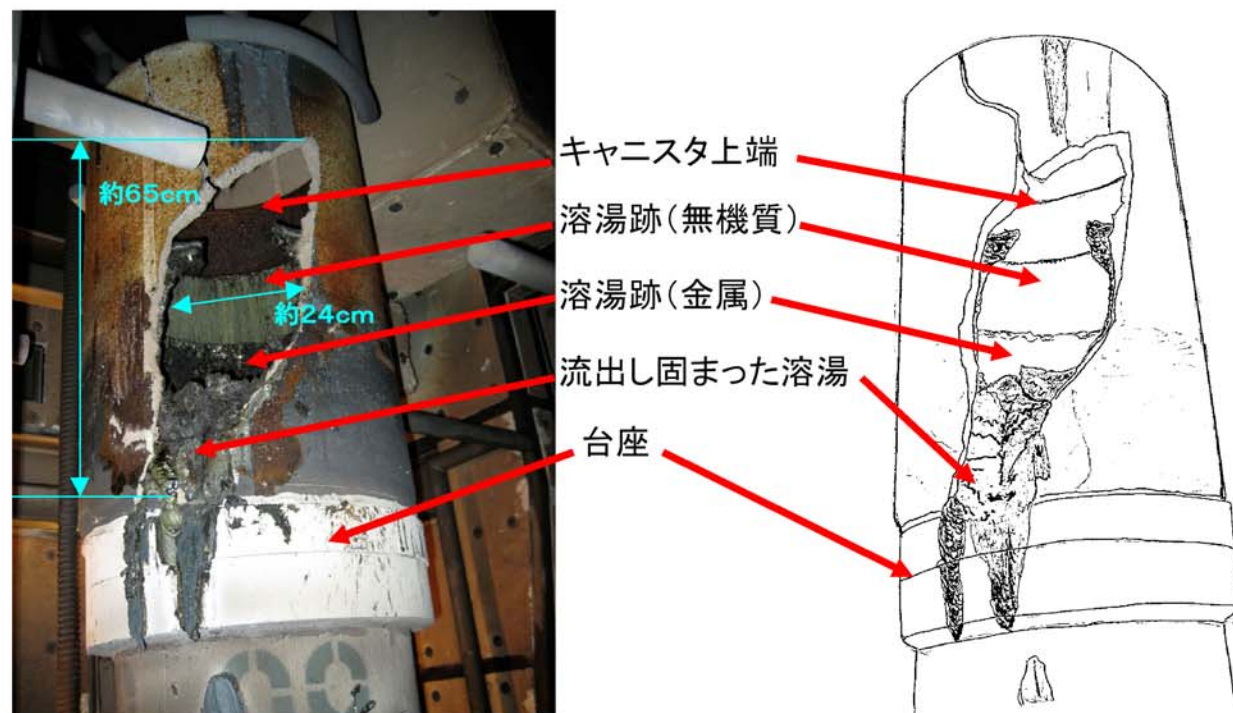
以 上

雑固体減容処理設備の概要



溶融炉キャニスタ冷却室等現場確認状況

キャニスタ外観状況

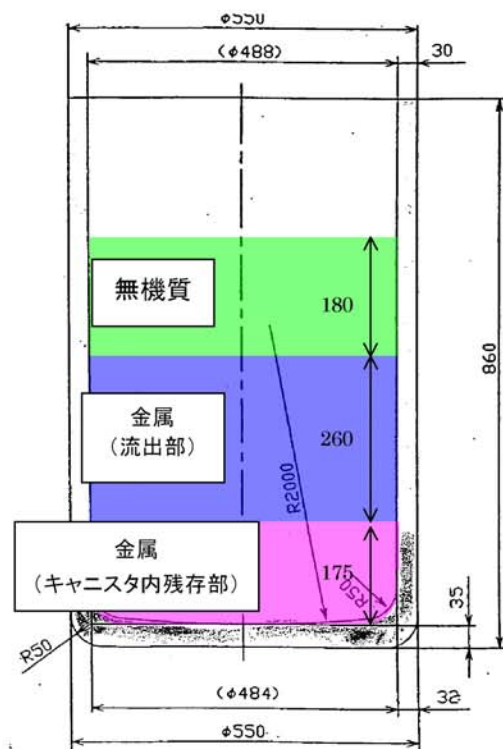


昇降機駆動用チェーンの状況外観図



上部スプロケットからチェーン外れている

キャニスタ構造図



キャニスタ内溶融物総量

$$(180 + 260 + 175) \times (488^2 \times 3.14) / 4 \div 120 \text{ l}$$

①無機質流出量

$$180 \times (488^2 \times 3.14) / 4 \div 40 \text{ l}$$

②金属流出量

$$260 \times (488^2 \times 3.14) / 4 \div 50 \text{ l}$$

③残存量

$$175 \times (488^2 \times 3.14) / 4 \div 30 \text{ l}$$

